

ICT*を通して文化芸術振興と地域貢献

*ICT…Information and Communication Technology コンピュータ技術を活用した情報通信技術



今年6月、NTT西日本の代表取締役社長を退任して相談役に就任した村尾和俊氏（関西経済連合会副会長）に、関西の伝統芸能への思い、最新の情報通信技術を活用した地域振興策、大阪城を核とした文化芸術の構想を伺った。

きっかけは京都

2000年9月に東京から異動し、5年間京都支店長を務めました。着任してほどなくNHK京都放送局の山本壮太郎局長（当時）から「せっかく京都で働くんだから、これを機会に転勤族で京都の芸術文化を勉強する会をつくろう」と誘われ、大手企業の京都支店長たち20数人で「聞風会（もんぷうかい）」という勉強会を立ち上げました。

聞風会では、京都のお寺を借りて華道や茶道、香道、座禅、京染めなどのさまざまな伝統文化を体験しました。そんなこともあって、長唄三味線の稀音家美穂一（きねやみほかず）さんに師事して三味線を習い始めました。きっかけとなったのは、私の京都着任の歓迎会を催してくださったとき、居合わせた舞妓さんに「私その三味線を弾いたら、踊って頂けますか」と尋ねると、「よろしおすえ」といわれたからで、ちょっと変わった動機だったかもしれません。

その後3年ほどして山本さんが異動されることになり、その送別会で三味線を披露しました。皆さんにお聴かせできるような腕前ではないと固辞しましたが、山本さんから「間違っただけで笑いをとって場も和む」と口説かれて断わり切れませんでした。そし

て大胆にも、茶道界や華道界の重鎮など名だたる方々の前で、稀音家美穂一師匠とともにお祝いの曲を披露させていただきました。

翌日、京都商工会議所から会頭の秘書の方が来社され、「今や京都の旦那衆でも、三味線を弾いたり小唄を歌わないのに、東京から来た人が、そうした芸事を披露してくれるのは素晴らしいことだ」とお褒めいただきました。また、日本経済新聞の交友抄に「三味線支店長」と紹介され、客先で「三味線支店長です」というと、とたんに和やかなムードになって話が進むようになりました。まさに「芸は身を助く」ということです。

ビジネスマンに必要な教養

大阪で財界活動をするようになって、京都支店長時代にさまざまな日本の伝統文化を学んでおいて本当によかったと思いました。日本のビジネスマンの多くは、自国の伝統文化について関心が薄く、外国人が日本の伝統文化に触れても、その話題について行けないのです。恥ずかしながら、私自身、京都へ来るまでは伝統文化に思いを馳せたことなどありませんでした。

弊社にも仕事一筋のあまり文化や芸術に疎い社員は少なくありません。弊社の各支店が保有する建物や絵画の中には文化財的な価値を有するものがいくつかあるのですが、維持管理費がかさむという理由でそれらを処分しようとしたり、ぞんざ